

『都市の経済学』

2013 後期
「はじめに」

1

都市経済学の目的と意義、特徴

* 都市経済学の目的

- * 都市経済学とは: 都市を研究対象とする経済学
- * 経済学とは:

希少な資源が経済活動の間でどのように**配分**され、その結果生じる生産物が**経済主体**の間でどのように**分配**されるかを研究する学問

- * 希少な資源 = 生産要素 (労働、資本、土地など)
- * 配分 = 資源配分 (何をどれだけどのように生産し、何をどれだけ消費するか)
- * 分配 = 所得分配 (生み出された対価が消費者間でどのように分けられるか)

* 都市経済学とは

都市において、どのような資源配分と所得分配が実現されるかを明らかにする学問分野である

2

* 都市経済学の目的

* 市場メカニズム (= 価格メカニズム)

- * 需要曲線 $D(p)$ 、供給曲線 $S(p)$ 、均衡 E 、均衡価格 p^* 、均衡取引量 q^*
- * 超過供給 → 価格が低下 → 均衡へ
- * 超過需要 → 価格が上昇 → 均衡へ

* 市場メカニズム (= 価格メカニズム) とは

価格の仲立ちのもとで、自由に売買がなされ、その結果資源配分が達成されるメカニズム

3

* 都市経済学の意義

- * 都市経済学は経済学の一分野 → 経済学の意義について考える
- * 資源配分、所得分配を明らかにする意義とは？

1. 経済現象や経済問題の説明

例) 都心から郊外に行くほど、地価や地代が減少

2. 経済問題の解決策の提示とその有効性の検討

例) 高層マンションの建築による負の外部性への対応

3. 予測

例) 人口の減少が、都市の密度や大きさはどのように変化するのか

4

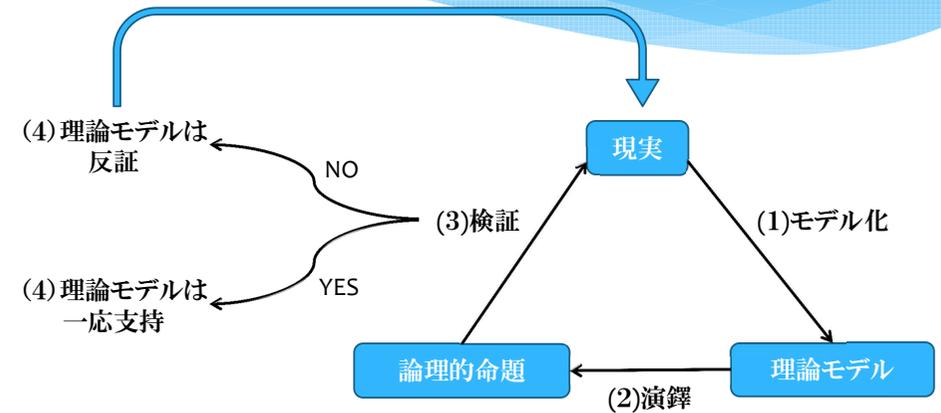
都市経済学の方法

都市経済学で用いられる方法＝経済学で用いられる方法
科学一般と同様で「科学的方法(scientific method)」

1. 理論モデルを構築する(モデル化)
複雑な現実経済を抽象化、単純化して、ありえそうな仮説の体系にすること
例) 消費者が予算制約のもとで効用関数を最大化する
2. 理論モデルから論理的命題を導く(演繹)
真偽の判断の対象となる事実(=命題)を論理的に導出すること
例) 市場の需要曲線は右下がりになる(ある条件のもとでは)
3. 論理的命題を現実と検証する(検証)
命題が事実であるか、データと統計学を応用して検証すること
4. 理論モデルの支持または反証
検証結果
命題が現実と不一致→理論モデルが反証→新たな理論モデルの作成
命題が現実と一致→理論モデルが一応支持

5

科学的方法



6